

「新潟市情報活用能力体系表」について

令和 6 年 10 月

学 校 支 援 課

中 央 図 書 館

(新潟市学校図書館支援センター)

1 「情報活用能力体系表」の作成について

現行学習指導要領では、「児童生徒の発達段階を考慮し、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む）、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図る」ことが求められています。

また、「児童生徒が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実」が求められており、そのためには、主体的・対話的で深い学びの実現に向けたアクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善を推進することが求められています。

さらには、「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、児童生徒の自主的、自発的な学習活動や読書活動を充実すること」として、これからの学校図書館には、読書活動の推進のために利活用されることに加え、調べ学習や新聞を活用した学習など、各教科等の様々な授業で活用されることにより、学校における言語活動や探究活動の場となり、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に資する役割が一層期待されています。

こうした「生きる力」をはぐくむためには、児童生徒が「課題の設定、情報の選択・収集、情報の記録・整理・分析、情報をまとめ伝え合う」という情報活用能力を身に付けていくことが必要と考えます。

2 「情報活用能力体系表」について

学校支援課が行っている学校図書館活用推進事業や中央図書館が行っている図書館主任研修において、図書館主任や学校司書から「情報活用能力体系表」のモデルプランを示してほしいという要望が多く寄せられていました。令和 6 年度に使用する小学校教科書、令和 7 年度に使用する中学校教科書が採択されたことを受け、このたび「情報活用能力体系表（以下「体系表」）」を作成しました。授業実践の活性化を願い、授業者と司書教諭（図書館主任）、学校司書とが共通理解を図り、各教科等において情報活用能力に関する学び方の指導を行う際のよりどころとなることを目指しました。

なお、「体系表」の作成に当たり、松江市学校図書館支援センターが作成した「学び方指導体系表」を提供いただき、参考にしました。

3 「体系表」の見方

(1) 「体系表」の形式について

表の横軸は、児童生徒の発達段階に即して、小学校1年生から中学校3年生の学年に区分しています。

表の縦軸は、最上段に「知る」というくくりで図書館の利用に関する内容を設け、その下に探究の学習過程に即して情報活用能力を大きく分類したまとまりを示しています。体系表の最も左にある「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」「振り返り」の欄がそれに当たります。これらの情報活用能力は、「新潟市授業づくりサポート」P14「2 育成を目指す情報活用能力とは」の①～③に示された能力に、新潟市が学習過程で重視している「課題の設定」と「振り返り」を加えたものです。

さらに、具体的な学習内容に合わせて情報活用能力を細かく分け、右側にアルファベットで区分して示しています。「情報の収集」を例にすると、「B 情報の収集」「C 調査」「D 図鑑、辞典、事典、統計資料、参考図書等の書籍」「E 新聞等の逐次刊行物」「F インターネット情報の利用上の留意点」「G 出典、出所、引用、著作権、参考資料一覧等」「H 図表、絵、写真の利用」となっています。

(2) 指導事項について

表の中の○で表記されているものが「指導事項」です。主に小学校国語科の教科書の初出の学年に記載しています。児童生徒や学校の実態に合わせ、必要に応じ示されている学年より早い学年で取り組むこともあり得ます。

中学校についても、中学校の教科書の初出の学年に記載しています。小学校と重複した指導事項がありますが、小学校で学習した内容を改めて中学校で学習する場があることを認識する意味でも必要であると考え、記載しています。

指導事項に関連した例示を＊で、行為を（ ）で表記しています。

(3) 指導事項の内容について

小中ともに国語科の教科書の指導事項を基本とした上で、小学校では社会科、理科、生活科、中学校では社会科（地理的分野・歴史的分野・公民的分野・地図）、理科、技術・家庭科の内容を参考に記載しています。

この体系表は情報活用能力の体系表であり、物語や説明的文章などの読解に関する指導事項については記載していません。また、低学年においては、文字ではなく絵や図から指導事項を類推している場合もあります。

「＊思考ツール」の利用は、小学校低学年から記載しています。教科書の例示を参考にし、授業のねらいに合わせて学習の様々な場面で活用してください。

4 「体系表」の活用（「年間指導計画 単元配列表」との活用）【別紙参照】